

第2回「北九州市健康づくり推進会議」 議事要旨

1 開催日時

令和7年11月18日(火) 18:30～19:55

2 開催場所

北九州市役所 3 階 大集会室

3 出席者等

(1)構成員(50 音順・敬称略、◎:座長、○:副座長)

有山構成員、池浦構成員、大河原構成員、小畑構成員、木庭構成員、田村構成員、筒井構成員、
中島構成員、○永野構成員、◎濱寄構成員、眞崎構成員、松井構成員、安田構成員

(2)市関係者

保健福祉局、政策局、総務市民局、子ども家庭局、産業経済局、教育委員会

4 会議経過及び発言内容(要旨)

【情報提供】[\[資料1-1\]](#)、[\[資料1-2\]](#)

- ・前回の第1回会議では、福岡県の健康寿命は全国的に下位であり、健康に対する注目度を上げる取り組みが必要である等、市の取り組みについての意見を多くいただいた。

北九州市の健康寿命(令和4年値)について

- ・令和7年6月中旬に政令指定都市の健康寿命(令和4年値)が発表された。

北九州市の健康寿命、不健康な期間(平均寿命と健康寿命の差)は以下の通りである。

男性	健康寿命:	71.94 年(令和元年)→72.44年(令和 4 年)。
	不健康な期間:	8.50 年(令和元年)→8.57 年(令和 4 年)
女性	健康寿命:	75.63 年(令和元年)→75.99 年(令和 4 年)。
	不健康な期間:	11.43 年(令和元年)→11.70 年(令和 4 年)。

男性、女性ともに健康寿命は延伸しているが、平均寿命も延びているため不健康な期間は少し拡大していた。

- ・政令指定都市比較では、北九州市の健康寿命は男性が12位(令和元年:18位)、女性が6位(令和元年:5位)である。順位の変動が大きく、捉え方が難しいところであるが、参考として現状を共有する。

【第三次北九州市健康づくり推進プラン関連事業の実施状況】([\[資料2-1\]](#)、[\[資料2-2\]](#)、[\[資料2-3\]](#))

- ・[\[資料2-1\]](#)はプランの関連事業の概要や目標、成果指標、令和6年度の実績、担当部署等を基本施策ごとにまとめたもの。
- ・[\[資料2-2\]](#)はプランの関連指標をまとめたもの。[\[資料2-3\]](#)は、指標の推移で、前年度より改善したものを水色、悪化したものを黄色で示している。
- ・最新値(令和6年度)を前年度(令和5年度)の値と比較すると、小学生・中学生の適正体重維持者の割合や、身体活動・運動をしている者の割合、歯・口腔の健康に関する指標について、前年度より数値が悪化しているところも散見される。

- ・ベースライン値と比較してむし歯のない子どもの割合は改善傾向。
- ・「健診受診」や「生活習慣病の発症予防」の項目では、特定健診の受診率の最新値(令和6年度)は34.8%で前年度(令和5年度:35.6%)より少し下がっている。

【取組紹介】

働く世代の健康づくり地域・職域連携の推進 資料3(1)

- ・第三次北九州市健康づくり推進プランの強化ターゲットである就労世代にアプローチするため、昨年7月に、地域保健と職域保健の関係者で構成する「働く世代の健康づくり推進会議」を設置して、地域の健康課題や各団体の取組み等を共有するとともに、「企業の健康づくり実態調査」を実施し、課題を整理して、次年度の取組みの検討を行った。
- ・令和7年度は6月に生命保険会社7団体で構成する「普及啓発部会」を設置し、部会構成団体と「働く世代の健康づくり推進会議」の12団体が中心となり、就労世代や企業の経営者等に対して、リーフレットを活用した健(検)診の受診促進、および健康経営の推進に関する普及啓発を行っていただいている。

女性の健康にやさしい社会づくりに向けたウーマンヘルスケア推進事業 資料3(2)

- ・女性はライフステージごとに女性ホルモンが劇的に変化することから、人生の各段階で、女性の健康課題の解決に取り組む必要がある。このため、北九州市医師会や北九州商工会議所などのステークホルダーと連携・協働しながら、女性自身のヘルスリテラシーの向上および健康経営の視点で、女性の健康に配慮した職場環境推進の取組みなどを進めている。
- ・(1)女性自身の健康への関心とリテラシーの向上(高校・大学向け出張トーク、イベント等での普及啓発、民間事業所と連携したがん検診)、(2)女性の健康に配慮した職場環境の推進(実態調査、啓発資材の制作、様々な媒体による周知啓発)等を実施している。

みんなでベジチェック®1万人プロジェクト 資料3(3)

- ・生活習慣病を予防し、健康寿命の延伸を図るためには、食生活の改善、中でも野菜の摂取が重要である。しかし福岡県の調査では、すべての年代で目標値(1日350g)を下回っている。
- ・このため、協力団体と連携し市内の様々な場所で、ベジチェック®(推定野菜摂取量を数値化する機器)を活用した測定会を実施し、野菜の摂取量を考えるきっかけとするとともに、野菜摂取の促進、食生活の改善を図る。
- ・測定者数については、9月末時点で10,756人。

【質問および意見交換】

<ベジチェックの活用について>

福岡県栄養士会

- ・ベジチェック®について、来年度以降も市ではリース等をする予定か
→来年度以降も実施予定。台数を増やせないか検討中である。

北九州市医師会

- ・ベジチェック®の測定は集団検診等での活用している。また、市民健康セミナーを今年度も3月28日(土)にアシスト21で実施予定。骨粗しょう症について整形外科の先生が講演する他、乳がん検診やフットケアと足の測定等を行う予定。

北九州市食生活改善推進員協議会

- ・ベジチェック®の取組みについて、市民が視覚的に野菜の摂取量を見ることができ、野菜摂取に取り組

むきっかけづくりになると思う。

北九州市歯科医師会

- ・栄養摂取においては、野菜を摂取することも大事であるが、咀嚼できるかということも重要である。
- ・ベジチェック®を活用した啓発の際に、咀嚼の重要性についての内容も盛り込んでいただきたい。また、歯科検診受診率もまだ低いので市と連携して上げていきたい

<若い世代、働く世代の健康づくりについて>

福岡産業保健総合支援センター

- ・更年期症状や女性の生理の問題についても診断書を出して治療が始まれば、治療と仕事の両立支援となるが、今の中小企業の対応や配慮の状況を見ると、女性や若い人への優しさが足りていないと感じる。その中で現在の若者が、自分達の将来に対して夢を持っていないのではないかと思う。若い人の意見を聞いてみたい。

Z世代課パートナーズ

- ・今後就職したいと思えるような企業について、結婚して子供を授かったときに支援してくれる、女性だけでなく男性への支援もしてくれるような企業が増えてほしいと思う。
- (WomanWill 推進室補足)現在、市では女性だけでなくそのカウンターパートである男性に対してもワークライフバランスを進めて、家事や育児を支援することが大切と考えている。今の若い方は、仕事も家庭も夫婦で一緒に取り組みたいと考え、それができるような企業に就職したいという思いが強い。そのような声を踏まえ、女性だけでなく男性も一緒に歩んでいけるような企業を応援する市を目指していきたいと考えている。

九州女子大学

- ・大学で勤務している際もメンタルヘルスの相談をよく受けており、若い学生への対応や支援も考えていかなければならないと日々実感している。

<ウーマンヘルスケアの推進について>

北九州商工会議所

- ・「はたらく×生理」ハンドブックがあれば、生理の問題について男性にも伝えやすくなるので、ぜひ早めに完成・配布してほしい。
- ハンドブックについては今週(11月20日)の報道発表で完成したことを発表後、配布開始予定。

産業医科大学

- ・厚生労働省の委託を受けて、働く女性の健康に関する研究を行っている。
- ・今後、更年期症状に関しても啓発ができると良いと感じた。また、相談先が複数ありその中から相談できるところを選べると良いと思う。
- 更年期症状については、産業医科大学様等の知見をお借りし、どのように情報を発信していくか今後検討したい。

<活動紹介等>

北九州市健康づくり推進員の会

- ・当会では主にシニアが主体となり、健康寿命を延ばすため、それぞれの校区で様々な企画やウォーキング、体操等を実施し、市民が健康で明るく生活できるよう、地域の健康づくり活動に取り組んでいる。

北九州市薬剤師会

- ・厚生労働省の推進する健康増進支援薬局は市の事業と重なる内容も多く、今後他都市の事例も参考と

しながら市との連携を進めていきたい。

福岡県理学療法士会

- ・当会では健康促進支援事業として令和6年度から令和8年度にかけて、企業に赴き運動指導を実施している。今後も市と連携できればと考える。
- ・働く世代の健康づくりについては、中小企業に加え、農業や漁業等の一次産業の事業者にも届くようなアプローチが重要。また、生理の啓発について小学校・中学校からの啓発も大事と考える。

【その他】

- ・11月23、24日に開催される「YOBOWEB博」では、23日(土)の16時から女性の健康を切り口にした予防医療に関するトークセッションを行う。ぜひ、団体内などで幅広く周知し、多くの方に参加いただきたい。
- ・本会議は年1回の開催予定のため、次は令和8年度に開催予定である。